沖縄県の米軍新基地建設の海域埋立てのため、沖縄戦戦没者遺骨の混じった南部の土砂を使用しないよう求める意見書

去る第二次世界大戦における沖縄での地上戦は、日本国軍隊を頼りに南部の糸満市摩文仁に移動した住民も巻き込み、凄惨極まりない地獄と化した。

神奈川県によると、昭和４０年１１月２６日沖縄県摩文仁に建立された神奈川の塔の合祀者数は、沖縄戦戦没者１６７８柱、南方諸地域３９００２柱、平和の礎に刻まれた神奈川県出身者１３３４柱となっている。そのうち、中郡（調査当時）には、陸、海軍合わせて６６柱の沖縄戦戦没者の方々がおられる。この方々の骨も混在していることを考えてみれば、沖縄だけの問題ではないことは明らかである。

沖縄県の米軍新基地建設の海域埋立てのため、沖縄戦戦没者遺骨の混じった南部の土砂を使用しないよう国に対し強く求める。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出する。

令和３年１２月２０日

伊勢原市議会